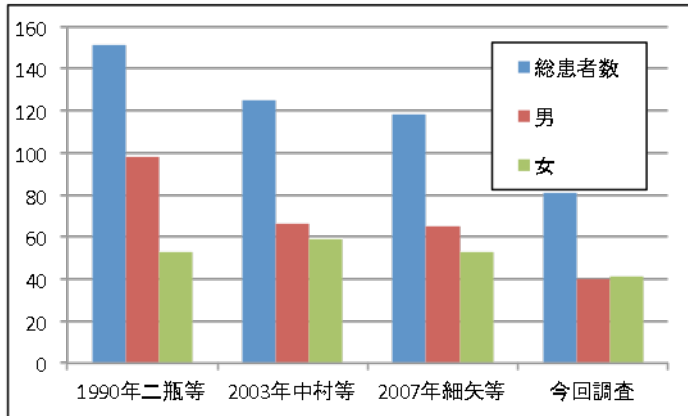


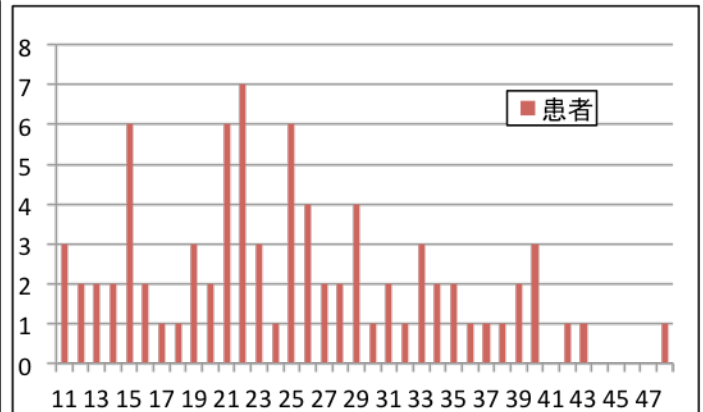
亜急性硬化性全脳炎の疫学調査

研究分担者： 東京大学医学部小児科 岡 明

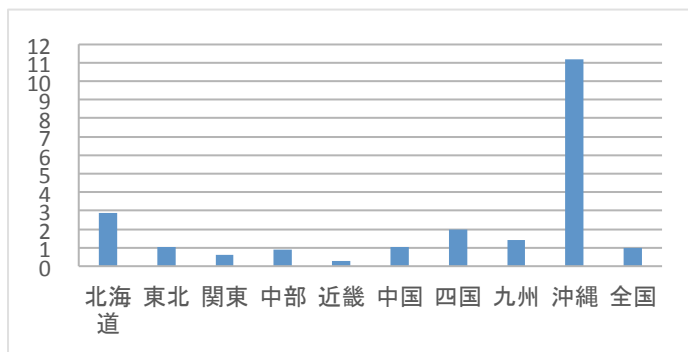
SSPE患者数は漸減傾向



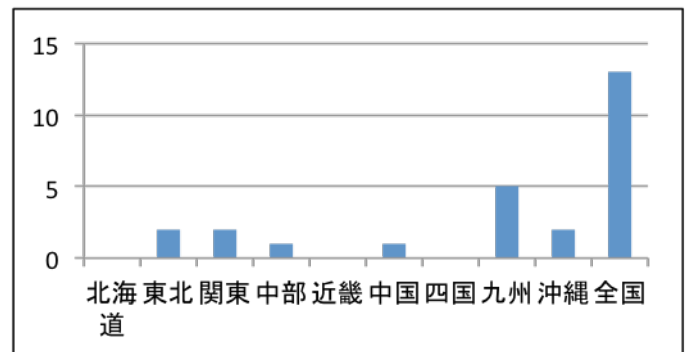
SSPE患者の半数以上は成人 (平均年齢25.0、歳中央値24歳)



地域により有病率にばらつきがある 地域別有病率(全国平均1として表示)



新規発症症例(地域別)



解説

1. 全国1470医療機関を対象として調査(2012年から2013年に実施)について解析を行った。全国で81名の患者数が確認された。以前の調査と比して漸減傾向にあり、麻疹対策の効果が少しずつできてきている。
2. 平均年齢は25歳であり、小児期に発症し長期の罹病期間にあることが分かった。
3. 地域別の有病率では沖縄県に高く、北海道も比較的高い数値を示した。新規発症症例については九州などに多い傾向があり注意を要すると考えられる。